広報ふじ

（毎月１日発行）

静岡県富士市平垣２７９番地
発行所 富士市役所
発行人 富士市長 遠藤脩治
印刷所 加藤印刷所
No. 60
昭和35年7月1日発行

人口の動き

人口総数 45.842 ｛男 22,865 女 22,977
世帯数 8.962
転入 320 出生 62
転出 258 死亡 20
婚姻 富士 28 田子 15 岩松 19 計 62
離婚 富士 1 田子 0 岩松 0 計 1
死産 富士 7 田子 1 岩松 0 計 8

（昭和35年６月１日現在、住民登録による）

財政事情の公表

（昭和34年度下半期分）

推進された災害復旧、建設事業

影響した七号台風

市では、さる六月一日、昭和三十四年度下半期分（昭和三十四年十月一日～同三十五年三月三十一日）の財政事情を公表しました。ご承知のとおり昭和三十四年度における市財政は、三十三年度の黒字財政の後を受けて、ますます充実しておりますが、今回の公表で特に注目される点は、①まず一般会計で台風七号による災害復旧費及び田子浦港築造費負担金、都市計画道路整備費、道路新設改良費、学校施設整備費など投資的経費を重点に人件費その他の諸経費を含めて総額約七千万円が追加計上され、災害復旧、建設の両事業が積極的に推進されたこと。②この追加により三月末の現計予算額は約四億七千万円となりかつてない大きな財政規模となったこと。③かかる現状から今後の財政運営は極めて明るく、収支の執行においても順調な成果を収めつつあることなどがあげられます。次に公表の概要を説明いたします。

（写真説明）
（上）市立富士第二小学校
（中）宮島団地市営住宅
（下）完成近い田子浦港

……予算執行の概況……

一般会計予算の三月末日現在における執行状況は別表に示す通りであります。総予算現額に対し、収入は九一・五％（昨年同期九二・二％）支出は七五・五％（昨年同期七九・二％）となっており、おおむね良好な執行状況であります。まず収入状況で、市債の収入割合が低いのは、起債による諸事業の大部分が、下半期に執行されたのでその進ちょく状況とのにらみあわせにより借入れをのばしたためであります。その反面市税はさき程述べたとおり順調な成果を収めております。

支出状況では土木費の支出割合が極めて低く、ついで教育費、諸支出金、産業経済費等の順となっております。土木費についてはその殆んどが田子浦港整備事業地元負担金で県が予期以上に台風の影響及びその他の事情に依り事業が遅延したため県え納入する時期がおくれたことと、また富士鷹岡線立体交差新設工事の遅延及び不執行によるものであります。また教育費については第二小学校改築工事及びその他追加工事によりその支出がずれている関係であります。

一般会計

総額七千万円を追加

予算の概況

昭和三十四年度の一般会計予算は昨年九月末現在で三億九千九百六万二千二百十九円でありましたがその後昨年十月二日及び十一月三十日の追加更正予算並びに十二月七日専決による追加予算と本年二月十三日最終追加予算とによって四億六千九百十七万八千四百七十円となり約七千万円の増加を見て年度末を迎えることになりました以上の一般会計予算の追加状況をまとめると下表の通りであります。

この結果昭和三十四年度の最終予算は、昭和三十三年度の最終予算三億九千四百五万六千五百円に比べて約七千五百万円余の増となりかつてない大きな財政規模となったのであります。この事は消費的経費は出来得る限り切詰め且投資的即ち別掲の通り事業を重点的にとりあげ推進し財政の合理化を図った現れであります。

昭和三十四年度一般会計歳入歳出予算の当初と最終予算を比較しますと、当初予算額に対し約一億円の増で割合にして二七・三％の増加となっています。この増加の内容を見ると歳出においてその使途の大体過半を占めるのは土木費の約四千八百万円であり、次いで社会及び労働施設費の約二千四百万円、教育費の約二千万円、諸支出金の一千万円の順となっております。これは事業の効果が後年度に及ぶ投資的事業について多額の追加が必要であり、かつ要請されることを示し、他方この増加額に見合う歳入の面では、その過半の五千万円の自己財源である市税に依存し、市債の四千五十万円とその四十％を占め以下繰越金約二千七百万円、雑収入等の増が主なもので、この内特に目につくのは当初見込んだ地方交付税で、これは合併算定替の適用外となったための減一千三百五十万円、及び国庫支出金の約六百万円の財源の調達が不可能となった事であります。このことは前年度もそうであった通り、市が行う建設的事業は予算編成当初国、県に依存する度合が強く、自主的にこれらの事業を行うに足る財源のない事、事業の実施もややもすると他律的になりがちであることであります。然し乍ら当市においては税収の如き安定性のある財源が最終的に計上され、これをカバーし得られるので財政運営は明るい反面このことはこの財源を洗いざらいに徴収しつくしていることをも意味しています。

以上何れにしてもこの追加更正予算により新たな事態に即応して重点的に経費の支出を図った外、これに見合う歳入の面では公共事業削減による、国、県依存財源を減額するかたわら市税を中心とする自主的財源をもって新規需要に充塡し市政に対する市民各位の要望に応えたのであります。

昭和34年度一般会計予算の推移

区分	予算額	指数	増減（△）
当初予算	368,575,300	100.0	―
昭和34年9月末現在	399,062,219	108.3	30,486,919
昭和34年10月2日 追加更正	430,374,719	116.8	31,312,500
昭和34年11月30日 追加更正	436,525,289	118.4	6,150,570
昭和34年12月7日 専決追加	437,525,289	118.7	1,000,000
昭和35年2月13日 追加更正（最終予算）	469,178,470	127.3	31,653,181

特別会計

予算の概況

当市の特別会計は当初六つありましたが競輪会計については静岡県五市競輪組合設立許可によりこの会計は廃止決議され五つとなりました。これら予算の合算額は一般会計に比べ約五十三％の額に達しておりますが、当初予算の合算額に対し最終予算の合算額は約十・五％の増となり、これは病院の経常費及び水道事業布設費の増であります。これら会計の三月末日現在における収支割合は次の通りでありますが、執行状況の説明は紙面の都合で省略いたします。

会計名	収入	支出
病院	九十・二％	九十・三％
水道	三十三・六	六十三・六
国保	九十六・一	八十二・五
質屋	一〇四・八	九十五・四
と畜場	七十二・四	八十二・一

住民の負担は

一人当り約六千六百円

三月末日現在における市税総額については調定額三億一千三百四万五千三十円であり、収入済額三億二十五万九千三百十七円で、その調定に対する収入歩合は九十五・九％であります。又これを住民（四万五千五百十三人）一人当りの負担割合をみると六千五百九十七円で一世帯（八千七百八十五戸）当り負担割合は三万四千百七十九円であります。

財産、公債及び一時借入金の状況

財産

三月末日現在における市有財産は基本財産、積立金及び有価証券の額が、（四百十万八千五百七十二円）土地、建物、工作物、機械器具及び植林等（紙面の都合により説明省略する）となっております。

市債

一般会計及び各特別会計の三月末日現在の市債は、三億六千三百八十三万三千円で、前回公表の九月末日現在の三億六千八百二十六万二千円に比べ四百四十二万九千円減少しております。これは一般会計において二百三十三万八千円、特別会計において二百九万一千円の元金償還をした結果であります。

一時借入金

三月末日現在において一般会計の一時借入金は皆無であります。

むすび

以上、昭和三十四年度下半期分の財政状況等の概要をお知らせいたしましたが、今後共、本市の財政運営には一段と留意してまいりたいと存じますので、市民の皆さまにおかれましても、市政発展のために一層のご理解とご協力をお願いいたす次第であります。

昭和34年度一般会計歳入歳出予算執行状況表
（3月末現在）

歳入 款別	現計予算額	収入済額	収入割合
市税	274,732,500	300,259,317	109.3
地方交付税	1,500,000	6,870,000	458.－
公営企業及び財産収入	1,763.500	1,303,886	73.9
分担金及び負担金	382,200	205,305	53.7
使用料及び手数料	6,194,900	6,197,616	100.－
国庫支出金	57,196,400	38,822,951	67.9
県支出金	4,897,900	1,119,393	22.9
寄附金	6,861,000	3,018,799	44.－
繰入金	509,700	506,825	99.4
繰越金	36,655,500	36,655,553	100.－
雑収入	16,984,870	15,557.480	91.6
市債	61,500,000	19,000,000	30.9
合計	469,178,470	429,517,125	91.5

歳出 款別	現計予算額	支出済額	支出割合
議会費	8,419,500	8,343,143	99,1
市役所費	54,259,400	52,143.203	96,1
消防費	9,756,500	7,521,780	77,1
土木費	155,839,000	85.490,701	54,9
教育費	64,405,500	50,085,117	77,8
社会及び労働施設費	54,417,020	48.561,597	89,2
保健衛生費	16,096,000	11,839,364	73,6
産業経済費	37,651,600	30,940,476	82,2
財産費	3,579,279	3,307,271	92,4
統計調査費	647,100	417,220	64,5
選挙費	11,425,000	982,589	86,－
公債費	12,658,000	12,519,804	98.9
諸支出金	50,058,048	41,967,950	83,8
予備費	249,023	―	―
合計	469,178,470	354,120,215	75,5

団体だより

◆富士市婦人会のチリ津波義損金は会員の温かい同情により、総額七万四千二百二十五円に達しました。従って内五万円は県婦連を通じて災害地へ、残りは富士市日赤奉仕団にそれぞれ寄託致しました。いつもながら御協力いただく婦人会の皆さんに対し厚く御礼申し上げます。

◆お盆が近づくに従って、各部落や会社工場で盆踊りの為のホークダンスの講習会の開催を希望致しますので今回富士市レクリエーション協会では教育委員会と共催で左記により講習会を開催致しますどなたでも結構です奮って御参加下さい。

日時 七月十四日 午後三時
七時の二回
会場 第一小学校講堂
講師 キングレコードより二名
参加料 無料

◆富士市文化連盟の主催により七月十五日（金）午後六時から富士見高校講堂に於て京都大学交響楽団（六十名編成）を招き市民の皆さんになまの音楽をお聞かせいたします入場料は無料ですからどなたでもお気軽にお出掛け下さい。

畜犬飼育者へ

◆狂犬病予防注射について

昭和三十五年度春期狂犬病予防注射は四月より九日間実施し一応終了致しましたがいまだに注射もれの畜犬も相当あると思われます。そこでこれ等の畜犬についてももれなく注射を実施し狂犬病の絶滅を図るよう今後も引き続いて注射を実施致しますから該当畜犬はもれなく受けて下さい。なお今年度未登録畜犬については必ず登録を市役所衛生課より受けて下さい。

◇注射受付期間

生後九十一日以上で四月（定期）の注射もれの畜犬については七月末までに受けて下さい。

★七月以後生後九十一日に達するものは九月末まで受けて下さい。

◇注射場所及び施術者

富士市本市場新田二一五ノ一（富士高等学校正門より北へ約百米）時田新三獣医師

第二次陸海空自衛官募集 志願受付6月1日～7月11日 試験 7月28日（木）沼津 7月30日（土）富士宮 詳細については市役所総務課へ。